

最適な公共交通の実現を目指す 「下妻市地域公共交通活性化協議会」設立

市では、市民の生活に必要な交通手段の確保と地域全体の公共交通活性化を図るため、「下妻市地域公共交通活性化協議会」を設立し、第1回の会議を9月24日、市役所第二庁舎で開催しました。

協議会の委員は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」「道路運送法」に基づき、自治区長やまちづくり団体の代表などの市民をはじめ、鉄道やバス、タクシーなどの交通事業者、学識経験者、関係行政機関の職員など24名で組織。会長に野中周一副市長、副会長に筑波大学社会工学類准教授の岡本直久氏が選出されました。

今回の会議では、協議会の規約や予算が協議されたほか、今後のスケジュールとして、平成27年度に地域公共交通網に係る計画を策定し、平成28年度から新たな公共交通の運行開始を目指すことなどを確認しました。

今後は、本年3月に満18歳以上の市民2,000人を対象に実施した「下妻市地域公共交通体系計画の基礎的調査」の結果を基に、市にとって最適な公共交通の実現に向けた議論が進められます。



市にとって最適な公共交通の実現に向けて議論がスタートしました

「下妻の梨」をマレーシアでPR・商談

「下妻の梨」の販売輸出を本格化させようと、タイをはじめ海外でのPR・商談に臨む下妻市果樹組合連合会、JA常総ひかり、下妻市は9月11日、日本貿易振興機構（JETRO）クアラルンプール事務所が主催する「日本産農水産物・食品輸出商談会inマレーシア2014」に参加しました。クアラルンプール中心部のホテルで行われた商談会には、日本各地から21社が参加。マレーシアからは卸しや小売り、レストランなど45社が参加して商談が行われました。

「下妻の梨」商談ブースには、空輸で持ち込んだ豊水、あきづきを並べ、試食を通じて甘みとみずみずしさの特徴をアピール。商談に臨んだJA常総ひかり下妻地区センター営業課の上野博樹課長からは「収穫後に摂氏2度で保存する『貯蔵梨』は、1～2月の旧正月（春節）まで品質を保持することが可能で、マレーシアでも日本食への人気が高いことから、ジャパンブランドの質の高い梨を売り込んでいきたい」と意気込みが聞かれました。

一方で、マレーシアのバイヤーからは、「価格をどう抑えるかが課題」との声があり、今後は輸送方法も含めた価格調整が課題とされましたが、帰国後も商談した中の12業者と連絡をとっており、引き続きPR等を行い、地道に販売輸出の実現を目指しています。



バイヤーに下妻の梨の品質の高さを示しながら商談に臨むJA職員と生産者



「株式会社ふれあい下妻」の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの経営状況（第16期）を公表します。

平成25年度は、円安や相場変動に伴う急激な燃料や原材料価格の上昇、電気料金の値上げなど、厳しい経営の中、経営基盤の強化、既存事業の強化・拡大、収益性の向上に注力し、各種事業に取り組みましたが、売上高は、前年比4.48%減の約7億7,740万円となりました。

道の駅しもつま

販売促進として、各種メディアによる情報発信やイベントの充実など、新規来場者とリピーターの確保に努めましたが、昨年に引き続き厳しい経営環境となっています。

売上高は、前期比3.38%減の約5億900万円となっています。

また、道の駅利用者数は、前期比0.27%減の約61万5,000人となっています。

ピアスパークしもつま

集客力の向上を図るため、農作物のロビー直売所設置、歌謡ショーの開催、変わり湯の実施などに取り組むとともに、地ビールのノンアルコール商品の開発販売、季節の地元食材を活かした料理への切り替えなどを行いましたが、売上高は、前期比5.71%減の約2億6,700万円となっています。

また、温泉入場者数は、前期比3.26%減の約15万9,000人となっています。

入湯税約1,311万円を市に納付

「株式会社ふれあい下妻」から、入湯税13,118,400円が市に納付されています。

「株式会社ふれあい下妻」に市が補助金を支出

「株式会社ふれあい下妻」は、温泉など競合施設のオープン、東日本大震災による大幅な集客の低下など、厳しい経営状況が続いており、当期利益は5期連続の赤字となり、本年8月には4,200万円余りの未払金が生じました。

市では、これまで「株式会社ふれあい下妻」から市に収められた積立基金に相当する額8,000万円を補助金として支出し、未払金の支払い及び平成26年度末までに想定される不足額に充当し、経営の健全化を図ることとしました。

今後、さらなる経費削減を図るとともに、集客力の向上を目指し、経営改善に取り組むよう「株式会社ふれあい下妻」に要請していきます。

経営状況の推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前期比較
売上高	8億1,376万円	8億1,390万円	7億7,740万円	△3,650万円
道の駅	5億5,221万円	5億2,993万円	5億966万円	△2,027万円
ピアスパーク	2億6,155万円	2億8,396万円	2億6,774万円	△1,622万円
税引前当期利益	△4,747万円	△6,367万円	△2,694万円	3,673万円
道の駅利用者	62万2,309人	61万7,581人	61万5,925人	△1,656人
温泉入場者	16万2,927人	16万5,309人	15万9,924人	△5,385人

有料広告欄

瑞宝双光章
(高齢者叙勲)

綱川 駿也さん

元八千代町立
中結城小学校長
(88歳・江)

受章者紹介



昭和24年に東京第三師範学校本科を卒業し、関本町立関本中学校に赴任されて以来、旧真壁郡、結城市、旧結城郡内の小中学校に勤務。昭和58年に結城市立上山川小学校の校長に就任し、昭和62年に八千代町立中結城小学校の校長として退職まで38年間の教職を務められました。「皆さまのご協力に心より感謝いたします」。

教育委員の任命



石濱 義則さん
(高道祖)

石濱義則さん（高道祖）が、第3回市議会定例会で同意を得て、教育委員会委員に任命されました。任期は、平成26年10月2日から平成30年10月1日までの4年間です。

石濱さんは、下妻市職員として長年にわたり教育行政を経験され、また退職後は保護司として更生支援活動に尽力されるなど、その豊富な経験と見識で、下妻市の教育の振興、文化の向上のために活躍が期待されます。